

24時間365日、安全で、円滑な高速道路へ

交通安全



24時間体制での交通管理

24時間365日の安全・安心を守るため、道路管制センターと交通管理隊が、24時間体制で道路上の各種設備や道路巡回により情報を収集し、事故・落下物等への緊急対応やお客さまへの情報提供を行っています。

隊員の声 お客さまからの「ありがとう」が力になる仕事

運転が好きなことを活かせる仕事として管理隊員に興味を持ち、高速道路の安全を支える社会貢献度の高さに魅力を感じて入社しました。現在は路線の巡回や落下物の排除、故障・事故対応などを行い、困っている利用者を直接助け、感謝の言葉をいただけることに大きなやりがいを感じています。入社当初は女性の少ない職場に不安もありましたが、先輩方に恵まれ、性別に関係なく意見を言い合える温かい環境の中で、自分らしく成長できています。

西日本高速道路サービス四国(株) 徳島基地 森本 和佳奈



高速道路走行中に落下物等の道路異常を発見した際は、
道路緊急ダイヤル#9910へ

安全運転の啓発

交通事故の根絶には、ドライバーをはじめとするお客さまのご理解・ご協力が不可欠です。当社グループでは、ステークホルダーの皆さまとともに、安全な高速道路を目指すため、高速道路内外での交通安全広報・キャンペーン等を推進しています。

▶SNDプロジェクト —交通事故をゼロにするための危険運転撲滅プロジェクト—

当社と阪神高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)、(株)エフエム大阪の4社共同で、高速道路での交通事故につながる「ながら運転」による危険運転を撲滅し、交通事故ゼロを目指すべく、「STOP! NAGARA DRIVING PROJECT(通称SNDプロジェクト)」を推進しています。



ともに行動・応援
していただける
サポーター募集中

メッセージ
キャンペーン
グランプリ作品

無理せずに 休む勇気も
運転力

わき見・よそ見
しながら運転



疲れながら運転
居眠り運転など



間違いながら運転
逆走、不注意の運転ミスなど



イライラしながら運転
あおり運転など



逆走対策

高速道路での逆走は、死亡事故等の重大な事故につながる可能性が高く、正しく走行している車両をも巻き込む可能性のある極めて危険な行為です。「2029年までに逆走による重大事故ゼロ」を目指し、効果的な対策を見定め、高速道路での逆走事故の撲滅に取り組んでいます。

▶逆走重点対策の実施

重点対策箇所(重大事故発生箇所、複数回発生箇所、平面交差箇所)を選定し対策強化を行っています。重点対策箇所については、公募技術を活用し、視覚的対策だけでなく物理的対策を中心とした対策を実施しています。

▶啓発用教材の一般公開

NEXCO 3社による「無くそう逆走」の取り組みでは、企業・団体や地域コミュニティにおける交通安全講習会などで使用していただける教材として、高速道路の逆走防止啓発の動画教材などをウェブサイトで公開しています。

- ・年間**80件程度**の逆走事案(事故または確保)※事故に至るのは10件程度
- ・65歳以上の**高齢者によるものが7割**近くを占める
- ・逆走事故は、死傷事故・死亡事故となる割合が高い
(高速道路での事故全体に対して、死傷事故**5倍**、死亡事故**40倍**)



過去の技術公募により採用した逆走対策



動画教材

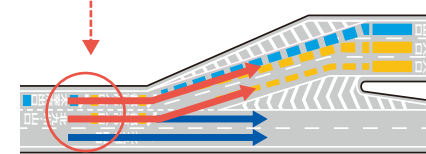
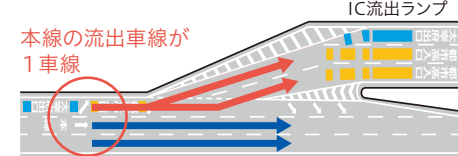


渋滞対策

ハード対策 渋滞しない道路を目指す

1. ネットワークの強化(P.31-38)
2. 車線拡幅(P.37-38)
3. 車線運用の変更
4. ETC利用率向上

渋滞状況を踏まえた車線運用の変更(太宰府IC)



流出車線を2車線に
することで渋滞を
9割削減

ソフト対策 交通分散を促す

1. ウェブサイト・テレビ・YouTube等による渋滞予測の広報
2. ウェブサイト及びスマホアプリによるリアルタイム交通情報の提供(アイハイウェイ)
3. 休日割引の対象日からGW、お盆、年末年始及び3連休等を除外(P.44)

YouTubeでの広報



渋滞予測カレンダー



高速料金・ルート検索
渋滞予測を考慮した所要時間を算出



リアルタイム交通情報(アイハイウェイ)



正面衝突事故防止対策

反対車線への飛び出しにより正面衝突につながりやすい暫定2車線区間では、区画柵の設置・検証を実施しています。区画柵を設置済みの箇所では、正面衝突による死亡事故が0件となりました。(2026年3月現在)



ワイヤーロープ



センターブロック



センターパイプ

降雪時の交通確保に向けて

基本方針 人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する

冬の高速道路の安全・安心を確保するため、上記基本方針のもと、凍結防止剤散布作業や除雪作業等、高速道路の安全で円滑な交通確保に向けて各種対策に取り組み、大雪時の雪氷対策の強化を図っています。

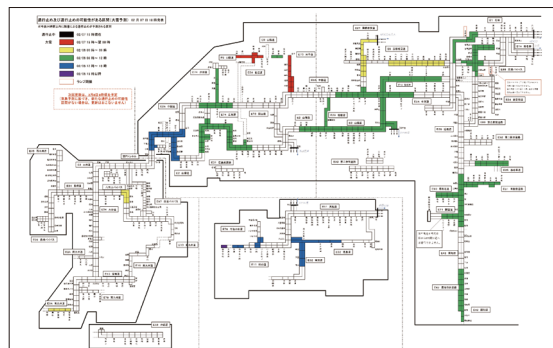
気象予測情報により大雪が予測される場合は、立ち往生車や滞留車が発生する前に躊躇なく通行止めを行うことを想定し、以下のオペレーションを基本として実施します。



大雪時のタイムライン

段階	国・自治体・警察・気象台など	NEXCO西日本	記者発表	ウェブサイト	X	高速道路影響情報サイト	テレビCM ラジオCM YouTube	道路情報板
1週間前	気象情報の共有など	通常の雪氷体制			冬装備 安全運転		冬装備 安全運転	冬装備 安全運転
3日前	情報連絡本部での連携	体制強化 ・応援派遣 ・協力要請 (災害協定事業者など)	大雪が予想される地域と時期 注意喚起・出控え・予想される通行止め区間				出控え (切替)	注意喚起
1日前	大雪に関する緊急発表		通行止め可能性区間と時間帯 ※概ね6時間毎に見直し					
降雪中	・情報の一元的収集・共有 ・関係機関での各種調整・協議 ・道路利用者や地域住民への 情報提供	立ち往生車・ 車両滞留発生前に 予防的通行止め 集中除雪	【通行止めの場合】 ・通行止め区間 ・作業状況・解除見込みなど					冬タイヤ装着/ チェーン携行 規制情報 通行止め等

概ね2日前から通行止め可能性マップを公表



スマホアプリやSNSでは、ライブカメラや現地の作業状況などを配信



スマホアプリ X(旧Twitter)



高速道路各社の重要なお知らせを発信する「高速道路影響情報サイト」

TOPICS

西日本エリア全域で「予防的通行止め」を実施

2026年1月・2月は冬型の気圧配置の影響を受け、西日本エリアに寒波が襲来しました。気象予測により、大雪が予測される場合は、現地状況を踏まえ、関係機関と協議、調整のうえ広域的に予防的通行止めや並行国道との同時通行止めを実施しました。特に、2月7日～9日にかけて襲来した寒波の影響により、普段雪の降らない地域を含めた西日本エリア全域で大雪となったことから、当社管内の総管理延長の約50%にあたる1,794kmが通行止めとなりました。関係機関と連携し、当社グループ総力をあげて対応にあたった結果、大規模な車両滞留を回避することができました。引き続き、「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する」という基本方針を遵守し、国民の皆さまへ予防的通行止めの理解度向上を目指す広報活動を強化するとともに、当社グループ一体となって通行止めオペレーションを徹底してまいります。

担当者の声 これまでより通行止め時間を削減

名神・新名神では、大雪による予防的通行止めを2026年1月に2回行いました。これまでの知見を活かしながら大規模な車両滞留を防止するとともに、通行止めの間に集中的な除雪を行うことで、2025年2月に実施した予防的通行止めよりも通行止め時間を短縮することができました。今後も、現場ノウハウの蓄積に努め、大雪時におけるお客さまの更なる安全確保に努めます。

関西支社 滋賀高速道路事務所
保全計画課 尾崎 由季



スタックによる車両滞留の発生と、 同記事象を繰り返さないための冬用タイヤチェックの強化

2026年1月2日、広島岩国道路(大野IC～大竹IC間)において、ノーマルタイヤ装着車両のスタックを起因とする大規模な車両滞留が発生しました。情報を確認後、速やかに通行止めを実施し、グループ総出でスタック車両及び滞留車両の排除をして除雪作業を行いました。通行止めの解除まで最大で約17時間を要しました。この事象を受け、警察と連携し、冬用タイヤチェックを強化しました。2026年1月11日～12日にかけて、山陽道及び広島岩国道路のインターチェンジ料金所等で冬用タイヤチェックを実施し、約3,000台のノーマルタイヤ装着車両の高速道路利用をお断りしました。これにより、スタック車両の発生を未然に防止することができました。引き続き、関係機関と連携した冬用タイヤチェック等を実施するとともに、冬用タイヤ装着の重要性について周知・啓発に取り組んでまいります。



責任者の声 冬用タイヤチェックへご協力をお願いします

2026年1月2日～3日にかけての通行止めではお客さまにご不便、ご迷惑をおかけしたことから、冬用タイヤチェックを強化し降雪時の交通確保に努めています。2026年1月23日～25日にかけて、警察、隣接の事務所と連携し広島・山口県内の冬用タイヤ規制を実施している区間の一部ICで冬用タイヤチェックを実施したところ、5%のお客さまがノーマルタイヤでした。冬の高速道路では、わずか1台の立ち往生が、長時間の車両滞留を引き起こし、多くの方の命に関わる事態に発展する可能性があります。当社グループでは、複数レーンでのチェックや自動判別装置の使用など、冬用タイヤチェックに伴う渋滞削減にも取り組んでいます。お客さまの安全のためにも冬用タイヤチェックへのご協力をお願いします。

中国支社 広島高速道路事務所 所長 三井 邦弘

